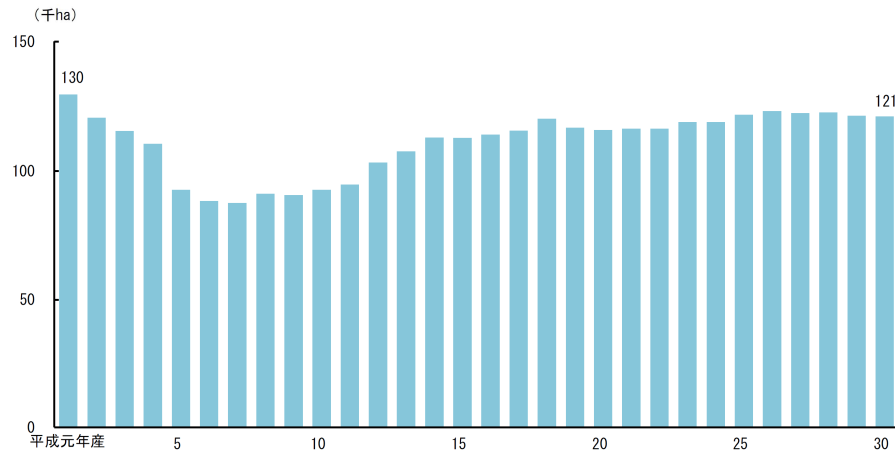


3 小麦（子実用）

■ 作付面積

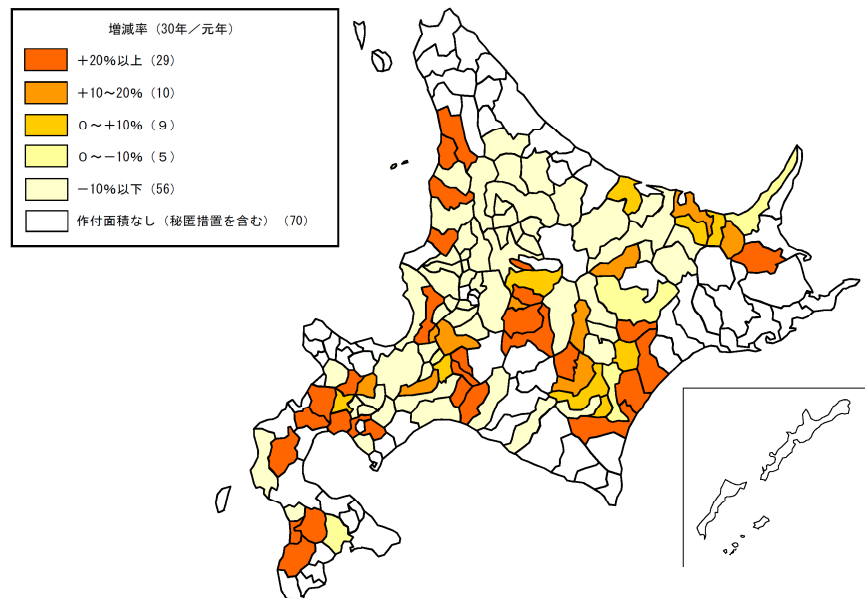
・北海道における平成30年産小麦（子実用）の作付面積は12万1,400haで、平成7年産まで減少していたものの、その後増加傾向で推移し、近年はほぼ横ばいとなっている。



資料：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」（以下同じ。）

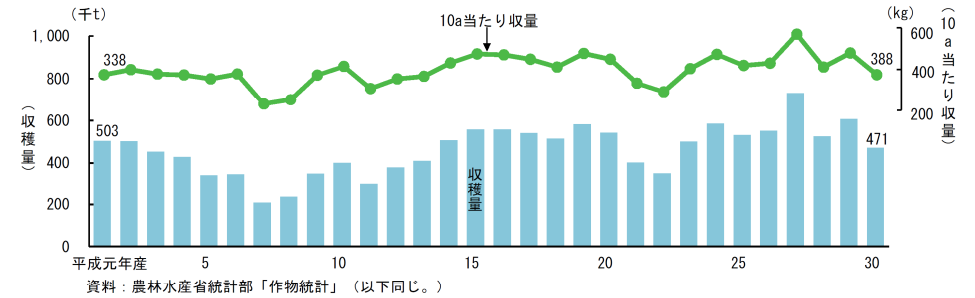
■ 作付面積の比較

・平成30年産の小麦（子実用）は道内127市町村で作付けされており、全市町村の71%を占めている。このうち48市町村で平成元年産に比べ作付面積が増加している。



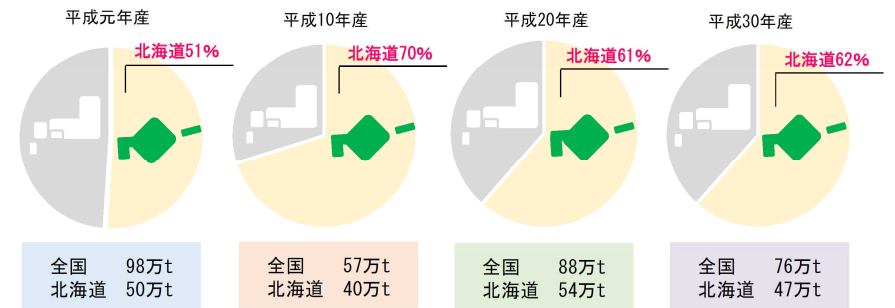
■ 収穫量と10a当たり収量

・小麦（子実用）の収穫量は、作付面積の減少に伴い一時減少した年があったものの、近年は平成元年産並みを確保している。
・平成9年産からの主力品種は「ホクシン」、平成23年産からは「きたほなみ」となっている。



資料：農林水産省統計部「作物統計」（以下同じ。）

■ 全国に占める北海道の小麦収穫量割合



■ 上位市町の収穫量

・平成30年産は音更町、帯広市、北見市、芽室町及び幕別町の上位5市町で、北海道の収穫量の約28%を占めている。

